

KURASHIKI CENTRAL HOSPITAL



この冊子は、倉敷中央病院をご理解いただくとともに、皆さま方とのコミュニケーションをはかるためのものです。皆さまと当院を結ぶかけはしとなるように、「Kニュース」と名付けました。

倉敷中央病院 ■患者本位の医療・全人医療・高度先進医療■

Kニュース

NO.20 2013.10

C O N T E N T S

院内散歩
時空回廊 I D E A (アイデア) 3

インタビュー
副院長 山形 専 4
わが街健康プロジェクト。
皆さんと一緒に
地域医療を支えたい

トピックス
わが街健康プロジェクト。 6

QQ車
ヘリポート使用について協定締結 7

ヘルシーリビング
遺伝診療部 主任部長 二宮 伸介 8
遺伝についてのお話

提案箱から
ジェネリック医薬品の採用について 13
エスカレーターのスปีドについて

院内散歩



● 時空回廊IDEA（アイデア） ●

“理念の継承”と題した展示エリアをつくり、「時空回廊IDEA（アイデア）」と命名しました。倉敷中央病院の「理念（IDEA）」である「患者本位の医療」「全人医療」および「高度先進医療」から出発した90年の歴史が表現されています。

倉敷中央病院設立当時から、順風満帆ではなかった時代、厳しい財務状況の中での第1棟の建設が規模の拡大と質の向上につながった高度成長期、急性期中心と地域完結型医療をコンセプトに持続型成長モデルを形成し、次なる発展に向けた病院施設リフレッシュ計画の完了へと続く、まさに「時空」をまたぐ“理念の継承”が展示されています。

建物という「空間」の「時間」的变化の中に表現された大原孫三郎の「理念（IDEA）」が広がっています。

この「理念（IDEA）」の先にある倉敷中央病院の新しい「時空」を作っていくのは、この空間に集まった人たちです。患者さんを中心に、病院のいろいろな職種のスタッフがいます。回廊の先の新たな「時空」を描くために、「理念（IDEA）」の継承と発展の道しるべとして、この「時空回廊IDEA（アイデア）」を大切にしたいと思います。

わが街健康プロジェクト。

皆さんと一緒に

地域医療を支えたい

副院長 山形 専

「わが街健康プロジェクト。」を始められるそうですが、これはどのようなものですか？

山形 これからの日本は、医療においても非常に厳しい状況になると思われます。その背景には、これから我々は人類史上未曾有の少子高齢社会に向かうこと、一方、国の財政は非常に厳しく、今後、

医療費の増加は期待できない情勢になっていくことがあげられます。こうした状況の中で、市民の健康寿命をどのようにして維持するかが大きな課題です。

その一歩として、積極的に市民の方に参加していただく「わが街健康プロジェクト」を企画しました。目的は参加していただいた市民の方々に「健康サポーター」となっていたいただき、自分の健康は自分で守るという意識を持っていたと同時に、家族や周囲の人々の健康管理にもお手伝いをしていただくことです。

そして、さらに医療の仕組みを理解して、医療施設の有効利用にご協力をいただくことです。

医療施設の有効利用とは、
どういうことですか

山形 街の中には、大きな病院から開業されている小規模の診療所やクリニックなど、いろんな規模の医療機関があります。現在これらの医療機関は緊密な連携を持っており、それぞれが医療機能の役割を持っています。

今後はそれぞれの医療機関の持つ役割がさらに明確化・厳密化され、同時に強い医療連携のもとに、患者さんの医療情報を、それぞれの医療機関で共有してゆくものと思われます。既に一部の医療機関の間では実施されつつあります。これによって無駄な検査や治療がなくなり、また患者さんはどこの医療機関でも、安心して医療を

受けることができるようになりま
す。そしてこれらは医療の効率化
ひいては医療費の削減にも結びつ
きます。

**このプロジェクトは、
実際には、どのようなことを
されるのですか？**

山形 これまで市民の健康管理は
ほとんど行政を頼りに行ってきた
おり、医療者の積極的参加が少な
かったように思います。このプロ
ジェクトでは、市内の多くの医療
施設が協力して、積極的な啓蒙活
動を企画し、講演会や勉強会を行
います。

そして参加した市民の方々に、
病気の予防や健康の維持・増進に
ついて学んでいただきます。また、
これからの医療の状況の変化を理

解して、医療機関を上手に利用で
きるように、理解していただきた
いのです。

勉強をするのですか

山形 そうですね。今日の医学の
進歩は、眼を見張るものがありま
す。いわゆる生活習慣病の多くは、
少し医療に関心を持てば十分に予
防することができ、健康寿命を容
易に延ばすことも可能です。

そのためには、正しい医学の知識
を身につけ、医療の仕組みを理解
していただくことが必要です。多
くの人生経験を積んだ方々に健康
サポーターになって、市民への健
康アドバイザーの役割を担ってい
ただきたいと思っています。

**健康サポーターになるには、
どうすればよいのですか**

山形 年に4回、講演会を開きま
す。まずそれに参加してください。
講演だけではなく、血圧や骨密度
の測定、看護、栄養、お薬の相談
などもあり、楽しみながら勉強し
ていただけます。

また、皆さん方と病院スタッフ
が意見交換をしたり、皆さん方が
学んだことを周りの方に広めてい
ただいたりしながら、このプロ
ジェクトを展開していきたいと考
えています。

皆さん方と、倉敷中央病院だけ
でなく、地域の医療機関が一緒
になって、健康長寿のわが街を実現
していきたいでしょう。

わが街健康プロジェクト。

～心かよう地域医療～
love our community



地域の医療とともに考える「わが街健康サポーター」 あなたも参加してみませんか？

活動テーマ

- ①病気の予防と健康維持
- ②医療機関と上手に付き合う
- ③倉敷をもっと好きになる

3つのテーマの実現にむけて、ご自身が行動し、さらに周囲の皆さんに伝えてくださる方を「わが街健康サポーター」と呼びます。プロジェクトに興味をお持ちでしたら、どなたでもご参加いただけます。

健康サポーターになるには

1. 講演会に参加していただきます

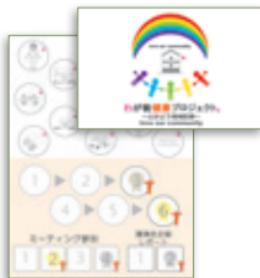
・講演の内容は

- ①病気の予防、健康の維持増進に関するお話：
心臓病、糖尿病、認知症、がん、骨や関節などの話
- ②皆さんと地域医療を守っていくためのお話：
医療機関の役割分担、かかりつけ医の役割、在宅医療などの話

※ご希望の方には、講演の始まる前に、健康・栄養・お薬についてなどの相談、体脂肪・骨塩定量などの測定をいたします。

2. 講演会はこれからもずっと続けて開催します

- ・講演会は年4回開催します。3回参加すると「ブロンズ」サポーターになります。
- ・講演会のほか、皆さんと医療関係者が意見交換をするミーティング、このプロジェクト広めるために皆さん方に企画していただくイベントの開催等を通じて「ゴールド」「プラチナ」サポーターに進んでいただきます。



スタンプカードで
楽しく参加

第1回 11月7日(木) 14:00～

第2回 2014年2月開催予定

＊ ＊ 問合せ・申込 086-422-5218 ＊ ＊



QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごとを運ぶ(お伝えする)コーナーです。

ヘリポート使用について 岡山県警と協定締結



当院では、近い将来に発生が予測される東南海地震等の大規模自然災害や重大事故等の緊急事態に際して、県警察のヘリコプター「わしゅう」が当院ヘリポートを効率的に使用できるように、県警察との間で協定を締結しました。

医療機関と県警察の間でヘリポート利用に関する協定を締結したのは、当院が初めて。7月12日、当院会議室で行われた協定調印式には、県警察から吉村倉敷警察署長、県警察航空隊長、倉敷警察署幹部等10名、当院から院長 小笠原等8名が出席し、署長と院長が協定書に署名しました。小笠原は、「県警察との緊密な連携のもと、災害拠点病院として地域医療の分野での責務を果たしたい」と挨拶をしました。

続いて9月5日には、防災週間に合わせて、県警との災害拠点病院合同訓練を実施しました。

訓練は、倉敷地域で大規模な地震災害が発生したとの想定で、「わしゅう」が救急搬送してきた重症患者1名を救命救急センターが受け入れる対応手順等を確認しました。



遺伝についてのお話

遺伝診療部 主任部長

二宮 伸介

1. はじめに

「遺伝」と聞くと、どのようなイメージを待たれるでしょうか。何か難しそう、自分の病気が遺伝する病気だったら・・・というふうに思われるかもしれませんが。

「遺伝」とは、親の形質（形や性質）が子どもに伝わることをいいます。特に病気だけに関連するわけではありません。また遺伝病と聞くと、遺伝す

る病気を連想するかもしれませんが。遺伝病が親から子に伝わる場合もありますが、親が発症していなくても遺伝病になることはあります。遺伝子に突然変異が起こることによって、病気を発症することもあるためです。

2. 遺伝子とは

細胞にはDNAと呼ばれる身体の設計図に相当するものが存在します。この設計図の中で、身体に必要なものを作る部分にあたるのが遺伝子です。ヒトの遺伝子の数は2〜3万と考えられています。この遺伝子の構造に異常が生じて、必要なものが正しく作れなくなつた時、遺伝病を発症します。

3. 遺伝子の異常と病気

遺伝子に異常が起こって病気を発症すると、その病気は子どもに遺伝するのでしょうか。がんは遺伝子の異常によって起こる病気であることが知られていますが、多くの場合、遺伝するものではありません。これは、多くのがんでは、完成された人の身体を構成している細胞の遺伝子に異常が生じるためです。この場合、変異を生じた細胞を中心に、その人に限ってがんを発症しますので、子どもにがんが遺伝するということはありません。

一方、人が誕生する受精の段階で、精子あるいは卵子に存在するある遺伝子に変異が生じていることもあります。この場合、生まれ



つき身体を構成するすべての細胞の遺伝子に変異が起こることになります。従って、親から子どもに変異が伝わって、遺伝する病気がでてくる可能性があります。

4. 染色体について

人の染色体は正常では46本あります。染色体は細胞が分裂する時にだけ、観察されるものです。遺伝子(DNA)は染色体上にのっています。常染色体という1番から22番までの番号がついたものと、XあるいはYという性染色体があります。男性はXY、女性はXXという性染色体を持っています。染色体や遺伝子は自分の父親と母親から半分ずつ受け継ぎます。常染色体は22本ずつ両親から受け継ぎ、性染色体は母親からはX染

色体を1本、父親からはXあるいはY染色体を1本受け継ぎます。従って、染色体の数は $2 \times 22 + 2$ (46(本))となります。

5. メンデル遺伝の形式に従う病気について

メンデルの遺伝の法則ということばを聞いたことがある方も多いと思います。これは病気が一つの遺伝子の変異で起こっている場合(単一遺伝子病といえます)にあてはまります。

① 常染色体優性遺伝の病気

両親から受け継いだ遺伝子は2個存在します。その内一方の遺伝子に変異を生じて病気を発症する場合は、常染色体優性遺伝形式の病気です。病気を発症している人

のお子さんは、50%の確率で、変異遺伝子を受け継ぐ可能性があります。(図1(1))

ここで注意すべき点があります。ある人が常染色体優性遺伝の疾患を発症している時に、その人の両親のどちらかが同じ疾患を発症しているとは必ずしも限らないということです。これは常染色体優性遺伝の疾患では、精子あるいは卵子に突然変異が生じて病気を発症することもあるためです。(図1(2))

② 常染色体劣性遺伝の病気

両親から受け継いだ2個の遺伝子の両方に変異が生じることによって、病気が発症する場合があります。多くの場合両親は、それぞれの親自身が持っている2個の遺伝子の

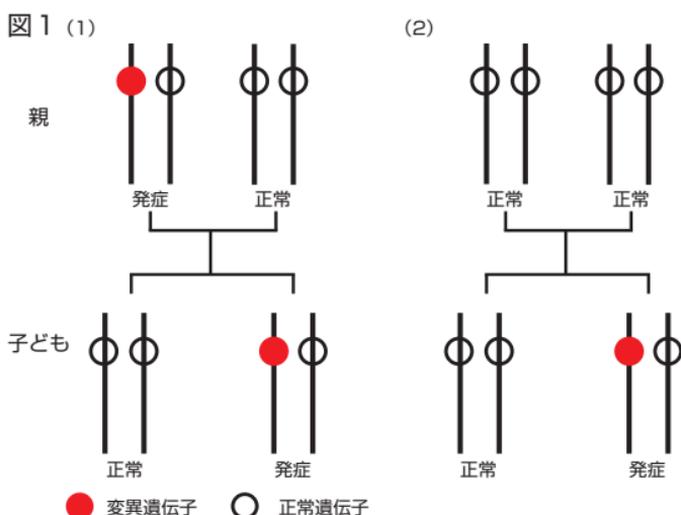


図1 常染色体優性遺伝の発症形式

- (1) 親のどちらかが発症している場合（変異遺伝子を持っている場合）、子どもは50%の確率で変異遺伝子を受け継ぎ、発症します。
- (2) 両親ともに正常で変異遺伝子を持っていない場合、子どもが遺伝子の突然変異により発症することがあります。この場合、次のお子さんにも同じ突然変異が遺伝子に生じ病気を発症する確率は高くありません。

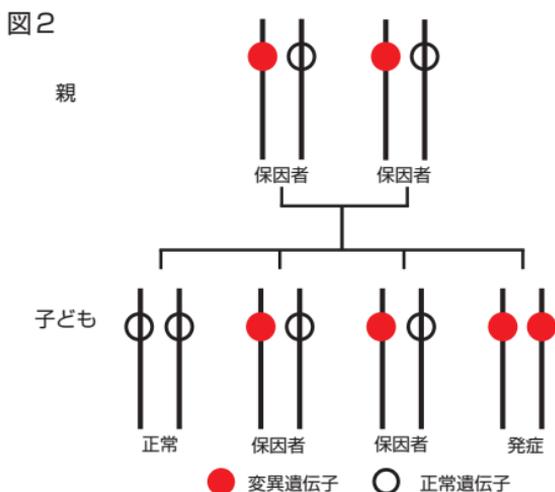


図2 常染色体劣性遺伝の発症形式

両親は通常保因者です。正常な遺伝子が1個存在するため、両親は病気を発症しません。子どもは両親から1個ずつ変異遺伝子を受け継ぐので、2個の遺伝子が両方とも変異遺伝子となる場合は発症します。お子さんが病気を発症する確率は25%となります。

内、一方に変異があります。しかし常染色体劣性遺伝の病気では、2個の遺伝子の内、一方に変異が

生じていても病気を発症しません。これを保因者の状態といいます。子どもは両親から変異遺伝子を

1個ずつ受け継いで、2個ともに変異が生じた状態になる場合に病気を発症します。両親が保因者の

場合、子どもが病気を発症（2個の遺伝子ともに変異が生じている状態）する確率は25%です。（図2）

③ X連鎖劣性遺伝

疾患の原因遺伝子が性染色体のX染色体上にある場合です。男性はX染色体を1本しか持たないの
で、X染色体上にある遺伝子に変異が起きると病気を発症します。女性
はX染色体を2本持っているの
で、一方のX染色体上の遺伝子
が変異を持っていても、もう一方
のX染色体上の遺伝子が正常であ
れば、病気を発症せず保因者の状
態となります。X連鎖劣性遺伝病
の女性保因者の子どもは、男性の
場合50%の確率で病気を発症しま
す。子どもが女性の場合は50%の

確率で保因者となります。（図3）
単一遺伝子の疾患の中にも、上
記の3つとは異なる遺伝形式をと

るものもあります。

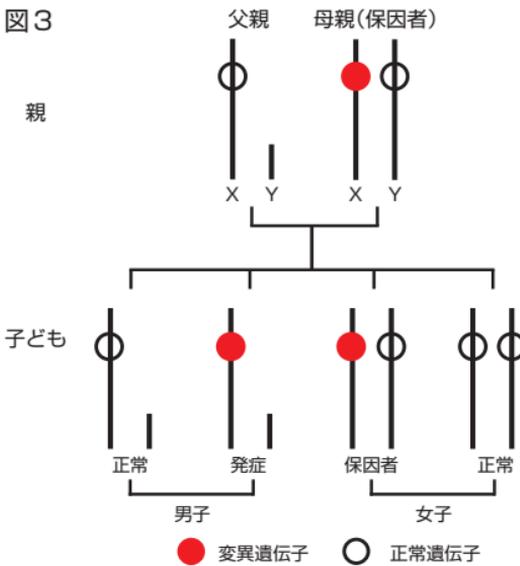


図3 X連鎖劣性遺伝の発症形式

父親が正常、母親が保因者の場合を示します。男性はX染色体が1本しか存在しないため、変異遺伝子があると病気を発症します。女性はX染色体が2本存在するため、1個の遺伝子に変異があっても、もう1個が正常であれば保因者にはなりますが発症はしません。生まれてくる子どもが男子の場合50%の確率で発症します。生まれてくる子どもが女子の場合は50%の確率で母親と同じ保因者となります。X連鎖劣性遺伝の病気でも両親が正常で、遺伝子の突然変異により病気を発症することがあります。

6. 多因子遺伝と病氣

生活習慣病（高血圧、糖尿病、脂質異常症など）をはじめ、病氣の発症には、環境的要因と遺伝的要因が複雑に絡み合っています。また多くの場合、遺伝的要因については、メンデル遺伝のところでは述べた単一遺伝子病ではありません。従って、病氣になる確率をはっきりした数字で示せる訳ではありません。

7. 遺伝カウンセリングとは？

遺伝カウンセリングとは、ある家系の遺伝疾患の発症や発症のリスクに関連した人間の問題を扱うコミュニケーションの過程と定義されます。遺伝疾患は先にあげたメンデル遺伝に従うものだけには

限りません。この遺伝カウンセリングの過程は、カウンセリング担当者からカウンセリングを受けるに
来られた方に対しての一方的な医学的情報の伝達ではなく、お互いにコミュニケーションを重ねること
とあるといえます。そして大切なことは、双方向のコミュニケーション
を通して、カウンセリングを受けに来られた方が、自分の抱えている遺
伝学的問題に対する方策を自由意思で選択し、最終的な決定を行うこと
ができるようにすることです。遺伝カウンセリングは、カウンセリング担
当者と患者さんおよびその家族が、共に構築するものと言えるのではない
かと思えます。

8. 当院遺伝診療部について

遺伝カウンセリングにはまず正確な診断が必要です。各診療科と連携を取りながら、正確な診断を行うようにしています。遺伝カウンセリングは個室で落ち着いた雰囲気のもとで、ゆっくり時間をかけてお話を伺います。遺伝の問題で何か気になることがあれば、予約を取っていただいた上、ぜひ相談に来てください。

☎〇八六一四二二一〇二一〇(代表)

提案箱



「Kニュース」は、皆さまと当院のコミュニケーションの場です。お気軽にご意見をお寄せいただいて、皆さまとともによりよい病院にしていきたいと願っています。

国の財政も厳しい中、医療費を少しでも抑えたいので、ジェネリック医薬品を採用してほしい。

当院では、先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを順次進めており、今年3月時点で192品目のジェネリック医薬品を採用しています。昨年1年間のジェネリック医薬品の使用量を集計すると、先発医薬品との差額は1億7000万円を超えており、医療費の削減にも貢献しています。しかしながら、この採用品目数は他の医療機関と比較して決して多い数とは言えません。今後、さらにジェネリック医薬品の使用を増やすべく努力していきたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

外来のエスカレーターのスピードが速い。子ども・足の悪い方・お年寄りの方・病気の方等、色々な方が利用するので、もう少し利用する側のことを考えてスピードを決めてほしい。

当院の外来にはエスカレーターを2か所に設置していますが、いずれもエレベーターとセットで配置しています。これはエスカレーター、エレベーターの役割を考慮して、二つの設備を組み合わせているためです。

外来は多くの来院者を受け入れていますので、輸送能力の大きな設備が必要となります。この役割を担うのがエスカレーターです。エスカレーターはエレベーターに比べ10倍もの人を運ぶことができますので、外来にはぜひ必要となります。一方、エレベーターは輸送能力は劣りますが、より安全に人を運ぶことができます。エスカレーターの速度を変更することは容易にできませんので、お子さまや体の不自由な方々は、ぜひエレベーターの利用をお願いいたします。



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

〒710-8602 岡山県倉敷市美和1丁目1番1号
TEL.(086)422-0210代 FAX.(086)421-3424
<http://www.kchnet.or.jp>